

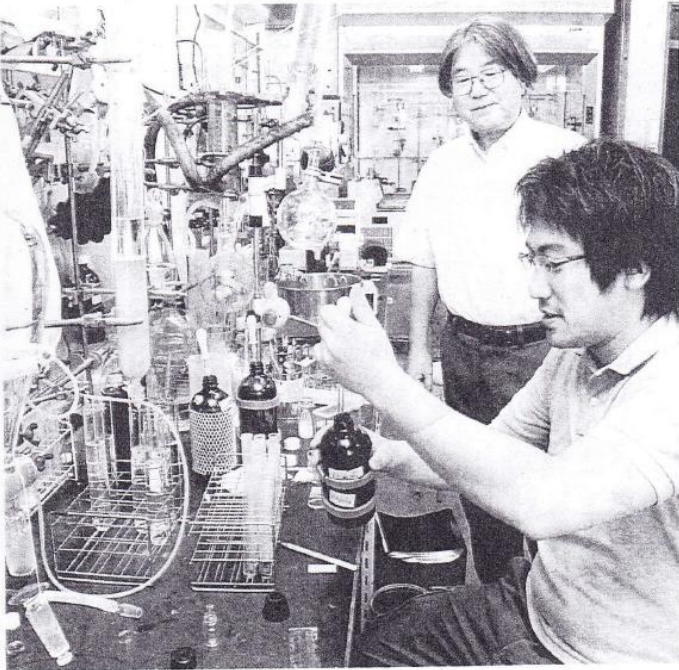
# 薬学部に独自の奨学金

徳島文理大

## 地方の薬剤師不足解消へ

徳島文理大(徳島市)が、薬学部に通う学生の経済的な負担軽減に加え、深刻化する地方の薬剤師不足の解消につなげようと独自の奨学金制度を導入した。薬剤師を確保したい地方の病院や薬局などの企業・団体が月額5万~10万円を貸与し、学生は卒業後の一定期間、その企業・団体に勤務すれば返済が免除される。学生や企業の反応も上々で、同大は「地域に貢献できる薬剤師を一人でも多く育てたい」としている。

【阿部弘賢】



薬学部の指導現場。薬剤師不足に悩む地方の病院や薬局などでは卒業生確保が課題だ

徳島市山城町の徳島文理大

### 病院など貸与、勤務で返済免除

全国の大学の薬学部は、大学側が成績優秀で教育内容を充実させ、秀でた地方医療への貢献意識の高い学生を推薦したいとの意向で、06年度にそれまでの4年制から6年制に移行し、企業・団体側の面接を経て貸与が決まった。しかし、同大に

よると、学生の経済的な負担が急激に膨らむことになり、地方の大学を中心に志願者が大きく減ったという。一方、修業期間が延びたことに伴い、今春に6年制下で最初の卒業生が出るまで2年間、卒業生がほとんどおらず、薬局や医療機関に人材確保が従来以上に難しくなったという。同大はこうした課題を解決しようと、昨年7月に新たな奨学金制度を導入した。

制度には、徳島や高知、沖縄など11県の薬剤師や看護師と局や病院など18業者もに地域医療を支えるが、奨学金を提供する側として取り組みに加

わると、6人の学生が制度を利用して奨学金を受け、企業・団体の反応は長く、参加に関する問い合わせが今もあるという。高知県内で薬局を展開する企業の担当者は「高知は薬学部のある大学が少なく、人材不足は深刻。一人でも多くの学生に来てもらいたい」と期待を寄せる。

福山愛保・同大薬学部部長は「奨学金は意欲が高く、他の学生の刺激にもなっている。地域にもつながる」と

徳島や高知、沖縄など11県の薬剤師や看護師と局や病院など18業者もに地域医療を支えるが、奨学金を提供する側として取り組みに加